

OTSU CITY MUSEUM OF HISTORY

大津 歴博 だより

2001
No.44

シアトル白澤庵コレクション

知られざる 日本絵画

HAKUTAKUAN COLLECTION from SEATTLE



2001年 10/6(土)~11/25(日)



大津市歴史博物館

企画展

知られざる日本絵画
シアトル白澤庵コレクション

HAKUTAKUAN COLLECTION
from
SEATTLE

- 会期 10月6日(土)~11月25日(日) (44日間)
- 休館日 月曜日(ただし10/8は開館)、10/9(火)



前田黙鳳 夢中山水図 大正時代

今、日本で最もホットな注目を浴びているアメリカの都市シアトルは、日本から最も近い米国土の都市として、早くから定期航路が開かれて日本人移民も多く、昔から日本に縁の深い土地です。当地の美術館には、充実した日本東洋美術のコレクションがあり、同時に、個性的な日本美術のコレクターたちがシアトルには何人も育っています。なかでも、今回、当館に里帰りする白澤庵(はくたくあん)コレクションは、当地のコレクターたちのブレイク的存在である研究者が、日本人の盲点をつく研究と評価により自ら収集したものです。

その江戸時代中期から昭和初期にいたるコレクションの内容は、特色ある作品と作家の発掘に満ちています。とりわけ、水墨表現を駆使した明治・大正の文人画家や個性的な大正期日本画家の作品

は、従来の日本美術の展覧会では見過ごされてきた、新鮮な絵画の世界を教えてください。それは、海外が認めた新しい名品といえるでしょう。本展では、同コレクションに見ることができ、横井金谷、紀樸亭、曾我蕭白や、近代の大津絵、東海道漫画絵巻など、大津ゆかりの作品をはじめ、魅力あふれる近代の美人画や風景画、そして、大胆な山水や水墨の漫画などバリエーションに富んだ100点あまりの作品を初公開いたします。

〔観覧料金〕

一般	600円(480円)
高大生	500円(400円)
小中生	400円(320円)

(一)内は、15名以上の団体料金、前売り、市内在住の65歳以上の方・障害者の方の割引料金



木谷千種 浅間嶽 (部分) 大正時代



若狭物外 大津絵九種図 (部分) 昭和時代



浅井観波 観音 大正時代



岩田秀耕 南洋椰子図 大正時代

本展では、特に興味深い以下の画家・テーマを中心に、約100点の作品を公開します。

- ① 花鳥・風景・人物画・古典と近代の狭間
- ② 自在な山水・幕末明治の文人画家
- ③ 近代日本画の女性像・美人画から女性像へ
- ④ 戯画・漫画・禅画

大津の画人Ⅰ—紀樛亭

■ 10月30日(火)～11月25日(日)

大津では、九老の名でよく知られる紀樛亭(一七三四～一八一〇)は、横井金谷とともに近江蕪村と呼ばれる文人画家です。彼は、呉春とならぶ与謝蕪村の門人として、絵と俳諧を学び、蕪村風の作品を多く残しています。その画名を知る人は多かつたとみえ、当時の京都の文化人名鑑であった『平安人物志』天明二年(一七八二)版には、師蕪村とともにその名が登場しています。

そんな彼にも転機が訪れます。同八年に起った大火で、京都は焼け尽くされ、焼け出された樛亭は、同門の龍賀を頼って大津の鍵屋町に移住してきたのです。彼は、大津でも歓迎され、新天地で積極的に筆をふるっていたようです。享和三年(一八〇三)の『東海道人物志』を見ると、大津宿の文化人として2番目にランキングされており、地元の人としての定着ぶりをみせています。それを物語るように、彼の旧居周辺の地域には、現在でも樛亭作品が少なからず伝わっています。今回は、大津に伝わった樛亭作品から、襖絵・屏風・絵馬などの初公開作品を展示いたします。



豫譲裂衣図 圓城寺蔵

●●●●● 講座インフォメーション (10月から11月まで) ●●●●●

10月13日(土)	14:00から15:30	第85回親子歴史講座	石器を作ってみよう
○金属を加工する技術がなかった時代、人々は石を加工して武器などの道具を作っていました。どのように石器を作ったのか小学生のみなさんにもわかりやすく解説。 講師：山崎和宏(本館学芸員)			
10月20日(土)	13:30から15:00	企画展関連講座	外国人コレクターの趣味
○異文化の美術に対して、積極的にその魅力を評価し収集して自分なりに楽しむアメリカ人たち。異国の地で全く異なる視点から鑑賞され、飾られる日本絵画の状況を報告します。 講師：横谷賢一郎(本館学芸員)			
10月28日(日)	13:30から15:00	企画展関連講座	文人画・日本画、時代趣味と収集の変遷
○明治前半に全盛を迎えた文人画、その後の日本画の開花。それらの絵画動向を、時代趣味と収集の視点から解説します。 講師：ポール・ベリー(美術史家)			
11月3日(祝)	13:30から15:00	企画展関連講座	大正日本画の世界(仮題)
○個性的な画家が次々と輩出した大正時代。今回は、展覧会出品作の画家を中心に、大正日本画の世界を紹介します。 講師：島田康寛(京都国立近代美術館学芸課長)			
11月10日(土)	バス一日	ふるさと大津歴史教室	葛川溪谷と鯖街道
○天台修験の聖地葛川明王院と、若狭から京都へ鯖を運んだ鯖街道の宿場町、朽木と熊川の街並みを訪れます。			
11月17日(土)	バス一日	ふるさと大津歴史教室	大津の仏像をめぐる
○堅田、仰木、雄琴、比叡辻等、北部地域に伝わる古仏を巡ります。			
11月24日(土)	13:30から15:00	ミニ企画展関連講座	大津ゆかりの画人—紀樛亭—
○樛亭の師、与謝蕪村は大画面作品を得意としていました。今回は、初公開の大作を中心に当館収蔵の樛亭画を紹介します。 講師：横谷賢一郎(本館学芸員)			

近江のパノラマ絵図

■11月27日(火)～1月20日(日)

大正期から昭和(戦前)にかけて、流行したものに鳥瞰図があります。この鳥瞰図の火付け役は、「吉田初三郎」という人物で、地図の両端を大きく折り曲げた様にデフォルメされて描かれたパノラマ的な地図は、おりからの観光ブームとあいまって、大変な人気を集めました。初三郎は、500種類以上の鳥瞰図を制作し、その範囲も全国各地のものが存在します。また、初三郎の影響をうけて、同様の鳥瞰図も数多く制作されています。

本展は、初三郎が描いた作品を中心に、近江関係のパノラマ絵図を紹介するものです。展示では、細部の拡大写真などを数多く配置し、描き方の工夫や見どころなど、その楽しみ方についても解説し、鳥瞰図の面白さを存分に紹介します。



琵琶湖遊覧御案内 吉田初三郎画 大正15年 本館蔵

●●●● 講座インフォメーション (12月から2月まで) ●●●●

12月1日(出)	13:30から15:00	第243回土曜講座	保良宮と石山寺
○奈良時代、石山の地に造営された保良宮と石山寺との関わり、さらには石山寺の創建など、寺の歴史についても紹介します。 講師：松浦俊和(本館学芸員)			
12月8日(出)	10:00から11:30	第86回親子歴史講座	しめ縄作りに挑戦!
○しめ縄作りを通じて、わら縄の作り方を学びます。 講師：木津 勝(本館学芸員)			
1月12日(出)	10:00から11:30	第87回親子歴史講座	自分の凧を作ろう!
○和紙と竹ひご・割竹を使って、昔なつかしの和凧をつくります。 講師：横谷賢一郎(本館学芸員)			
1月19日(出)	13:30から15:00	ミニ企画展関連講座	パノラマ絵図の世界
○近代に流行したパノラマ絵図(鳥瞰図)の元祖、吉田初三郎の作品を中心に、鳥瞰図の魅力を紹介し ます。 講師：木津 勝(本館学芸員)			
1月26日(出)	13:30から15:00	ミニ企画展関連講座	近江湖南の仏像
○湖南の金勝山、阿星山、櫛野寺などは古代の仏教文化の中心地でした。そこに伝来した仏像について、 実調査に基づいた最新の成果を紹介します。 講師：佐々木進(栗東歴史民俗博物館館長)			
2月2日(出)	13:30から15:00	ミニ企画展関連講座	仏像の道一南都から近江へー
○古代から中世にかけて、南都(奈良)の仏教文化は、京都経由ではなく直接近江南部へ入ってきました。 その痕跡を具体例で追いながら、両地域の文化的密接さを追求します。 講師：寺島典人(本館学芸員)			
2月9日(出)	10:00から11:30	第88回親子歴史講座	和綴じ本を作る
○和綴じ本とは日本風の綴じ方をした本という意味。昔の人はどんな風に本を綴っていたのでしょうか。 実際に作って勉強です! 講師：山崎和宏(本館学芸員)			

※諸般の事情により、内容が変更される場合があります。

※いずれの講座もハガキでお申込みください。

※参加証の発送は、講座申込み締切り(10日前)以降となります。

通知がない場合は、恐れ入りますが、博物館までお問い合わせください。

常展展示を模様替え

平成二年の開館以来、皆さんに親しんでいただいた常設展示室の資料を、このたび、大幅に展示替えしました。また、各展示資料の解説を詳しいものにし書き改め、古文書にも解説文をつけました。展示した資料の主なものとしては、七〇〇年前の葛川と伊香立の領地争いに関する古文書（八所神社蔵、市指定文化財）を初め、二〇〇年前の堅田の名勝・天然図画亭を描いた巻物（下段収蔵品紹介参照）、獄にながれた幕末の膳所藩烈士が紙こよりでつづった碎世の短冊などがあり、大津絵のコーナーも、画題ごとに定期的な展示換えをすることにしました。第一回目のテーマは「鬼」です。

また細部まで再現された町並み模型も、今まで気づかなかったような場面を、写真パネルで紹介しました。「えつ、こんな場面があったの！」と驚かれるかもしれません、これも今回の模様替えの目玉です。

開館以来、一部展示替えはおこなっていたのですが、それらの情報を今までは発信していませんでした。今後は、昨年オープンした「れきはくホームページ」や「広報おつ」などで、積極的に紹介していきたいと思います。是非とも新しくなった常設展示室にお越しください。

常展資料紹介

明堂和尚古松之記

享和元年（一八〇一）
本館蔵（居初寅夫氏寄贈）

堅田は、琵琶湖とともにその歴史を刻んできました。湖に建つ浮御堂（満月寺）は、その象徴といえます。また、ここで紹介する居初氏庭園も、湖や対岸の山々を借景とした雄大な庭園で、多くの文人墨客が訪れた、堅田の風光を代表する所です。

居初氏は、中世以来堅田に居住する郷土の家柄。その庭園を、大徳寺の僧明堂（一七六八〜一八三七）が、享和元年に描いたのが本作品です。ここには、現在見られない老松が大きく描かれています。作品のタイトルにもなるくらい存在感のある松で、このためかつてはこの地を小唐崎とも呼びました。

庭園にある建物（茶室）は、天和元年（一六八二）以前に完成し、庭は元禄年間、京の茶人で千宗旦（利休の孫）四天王の一人、藤村庸軒（一六一三）と、その弟子北村幽安（一六四九〜一七一九）によって作庭されています。北村幽安は、堅田出身で、居初氏とも姻戚関係にあり、茶人として、また料理にも造詣の深い人物だったようです。

この庭園にある建物を「天然図画亭」と呼んだのは、漢詩人として有名な、天台僧慈周（六如、一七三四〜一八〇一）で、寛政九年（一七九七）のこと。このため、この庭を天然図画亭庭園とも呼んでいます。



明堂和尚古松之記（部分）

大津歴博だより No.44
平成13年9月21日

大津市歴史博物館

〒520 0037 大津市御陵町2-2 ☎(077)521-2100
ホームページ <http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp>

R100